



futanari

男の娘の淫らな変身



俺はカレシ。ごく平凡な高校生だ。今彼女に呼び出されて校舎裏に来ている。なんでも「秘密の相談」があるそうだ。



「ゴメン♡待ったあ」  
彼女の名前は味方。俺の恋人である。  
某機関の正義の戦士として活躍している。



暗黒大名との戦い以降会っていないなかつたが、  
以前と比べて何だか妖艶な雰囲気か漂って  
いる。胸もすごく大きくなっている。



「秘密の相談って何？」 「察しが悪いなあ…  
恋人との秘め事っていったら一つだけだよ。  
…あなたと…契りを交わしたいの♡」



「…!?」俺は耳を疑った!俺の知っている  
「正義感の強い真面目な味方」なら決して  
口にしらない言葉だったからだ。「但し♡…」



「やるのは…アブノーマルセックスだよ♡」  
「え…」  
「♡♡♡♡♡」



味方は公衆の面前かつ彼氏の目の前で、  
恍惚な表情を浮かべてセーラー服を破き、  
淫らに変身していく。



「んはあ〜♡変身チュウに得るこの快樂…  
たまらにや〜い♡…目をそらさないで♡  
恋人の恥ずかしい変身をしっかりと見て♡」



驚くべきは、彼女の股間に生えたイチモツである。並みの男よりも猛々しいそれは、脈を打ちながら黒い精子を吐出している。



カウパー腺液を垂らしながら精子を吐出  
している様は「射精」というよりも「出産」と  
いったほうが正しいかもしれない…

眩しい光が視界を奪った後、俺の目に入ったのは「正義感の欠片もない痴女の模範生」というべき妖艶な恰好をした恋人だった…



「……あ……」 「うふふ、カレシ君のためがいい♡  
キモチよくセックスできる恥ずかしい  
恰好に変身したよ♡どう？興奮したあ♡」



俺の股間は勃起していた！味方の厭らしい  
変身シーンは高的生活中又キ続けることが  
できるくらいのエロトラウマだった。



「うふふ、股間にテント張っちゃって♡…でも  
…お楽しみはこれからだよ♡」 「何だ？…  
アタマが…クラクラして…」



目が覚めると、亜空間の様な場所にいた。  
俺は自分の下腹部に違和感を覚える。  
妙に股間がスーッスーッするのだ。





ええっ!!



俺は女装していた!! 極端に短いスカートの下は何も穿いていないためスースーしていたのだ。  
「似合ってるよ♡カレシちゃん♡」



「今から、女性的な顔立ちのカレシちゃんを  
身も心も女の子に墮とす♡…  
キモチいいセックスをするよ♡」



「カレシちゃんには私に身を任せて、何も考えず、キモチよくイクだけでいいの♡」  
「味方!!ちよつと待…」 「イクよ!」



!?







刺激される度にお腹の奥から未知の快樂が  
じわあ〜と押し寄せ、俺の男の尊嚴が  
押し流されていく…俺が俺でなくなる…



（うふふ、段々女の子っぽくなってきた♡  
私もイキそう♡でも射精するのは今じゃ  
ない……うふふ、楽しみだなあ）



「…イ…イキ…そっ…」 「イクの？…ん…よ♡  
いっぱいメスイキきめてっ…ん…よ♡♡」  
「…っ…っ…わあ…♡♡」

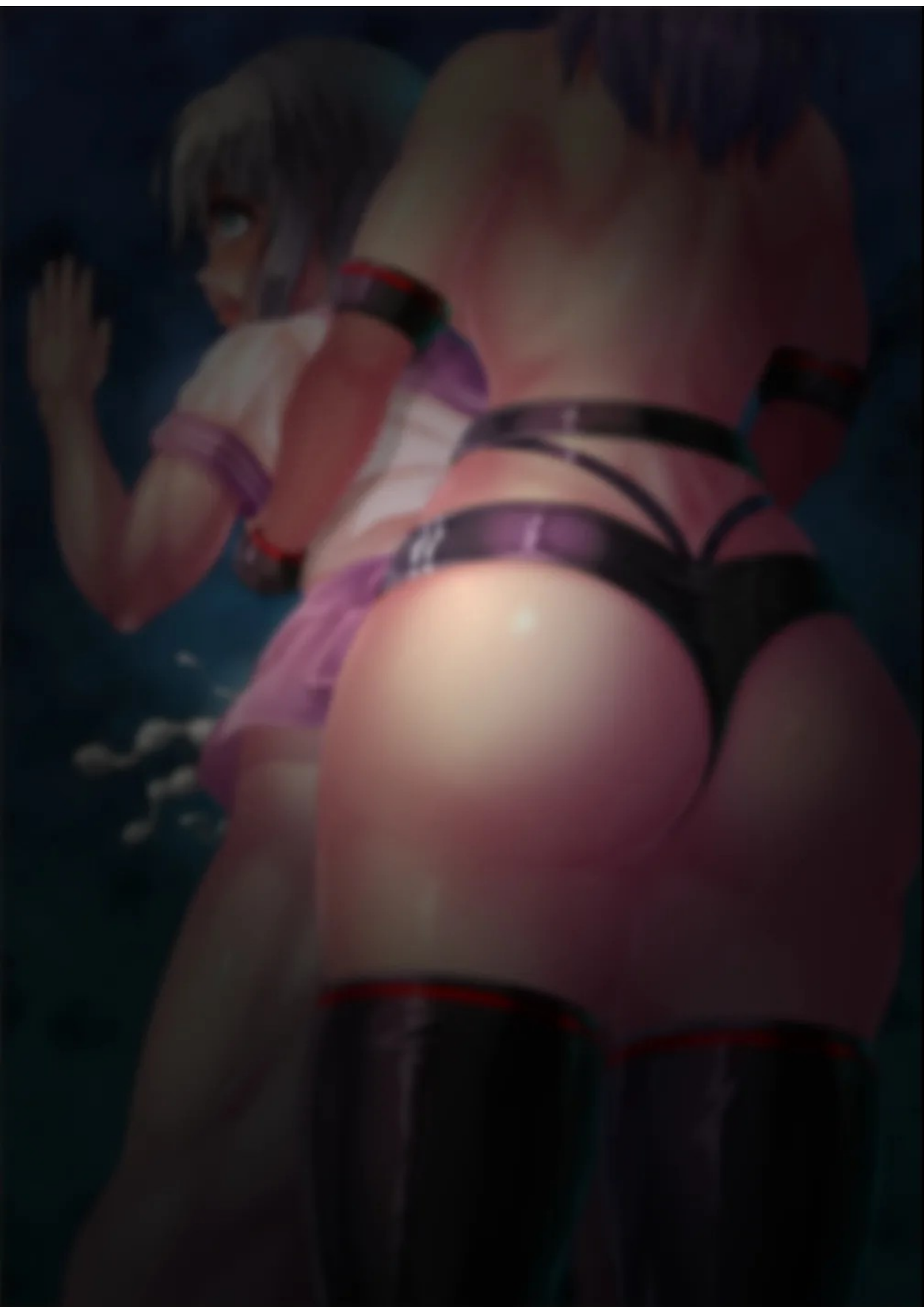


んおおおお♡♡♡



一度も触れていないイチモツから、真つ白な精液を滝の様に射精した。大量射精により男の尊厳も失い、体はメスイキを覚えた…

「今後はこのセックスで覚えたメスの感覚を  
オカズに、自分でオナニーするのよ♡」  
「このセーラー服はあなたにプレゼント♡」



数日後の放課後



俺の高校生活はいつもと変わらない…  
…「ある一点」を除いては…  
「おいしいカレシ！ゲーセンいこーぜ！」

「悪い。この後『大切な用事』があつて……」  
友人の誘いを断つた後、人気のない校舎裏に  
行き、俺は学ランを脱ぎ捨ててる……そして……





セーラー服を着て、いつもの「メスオナニー」  
を始める！味方に犯された時に体が覚えた  
「メスイキ」を思い浮かべながら…



ミニスカートからイチモツを露出させて、友人や先生に見つかるとは思えないことに背徳感を感じる頃、絶頂をむかえる……



「んおお♡…」 精液は日毎に薄くなり、射精  
以外では勃起しない体になった。性欲は日々  
増大し、オナニーだけでは満足できな…



「順調にメス化が進んでるね♡」 「味方…」  
「少し違うかな。今の私は『コラフルミカタ』  
暗黒大名の当主だよ♡」 「何を言ってる…」



「暗黒大名との決戦に負けて、コラフルアイ  
ちやんの『嫡男』になったの♡当主は世継ぎ  
を作ることも重要な仕事なのね♡」

「私も当主として『嫡男』を作る必要があるけれど、アイちゃんと同じく世継ぎが授からないの……」





「そこで、カレシちゃんを『養子』として迎えることにしたの。当主の条件は『男性器を備えたメス』…つまり今のキミだよ♡」



「これは、変身アイテム『コラフマグラ』♡  
キミはこれで厭らしくメス堕ち変身して、  
痴女に生まれ変わるの♡」



「…ください…」 「え？」 「入れてください♡  
俺…ア、アタシを厭らしいメスに墮として  
ください♡」



「よく言えました♡…私がこのまま入れてあげる…お尻の力を抜いて♡いくよ〜！」



んおぉお♡♡♡♡



コラフマグラは肛門の奥にある女の子の素  
をリズミカルに刺激する。イチモツから  
漏れるカウパー腺液が止まらない。



どこからともなく声が聞こえる...

「お前はメスだ」「アタシはメス...」「お前は  
厭らしいメスに変身するのだ」「変身する...」



「呪文を唱えて厭らしく変身しろ！」  
「唱える♡：♡へんしんする♡♡：♡アタシ…  
イ、厭らしくへんしんするの♡♡♡♡♡」



「唱えちやつた♡オス…捨てちやつた♡」  
アタシは変身による羞恥心で軽くイッて  
しまった。触手が、アタシに忍び寄り…





「乳首…イイ♡乳首キモチいいのお♡」  
触手による乳首責めで「乳首アクメ」という  
新たなメスのキモチよさを覚えた…



「仕上げに、コラフ一族秘伝のニップル  
パッドで、カレシちゃんのを『オスおっぱい』を  
『メスおっぱい』にしてあげる♡」「ああ♡…」

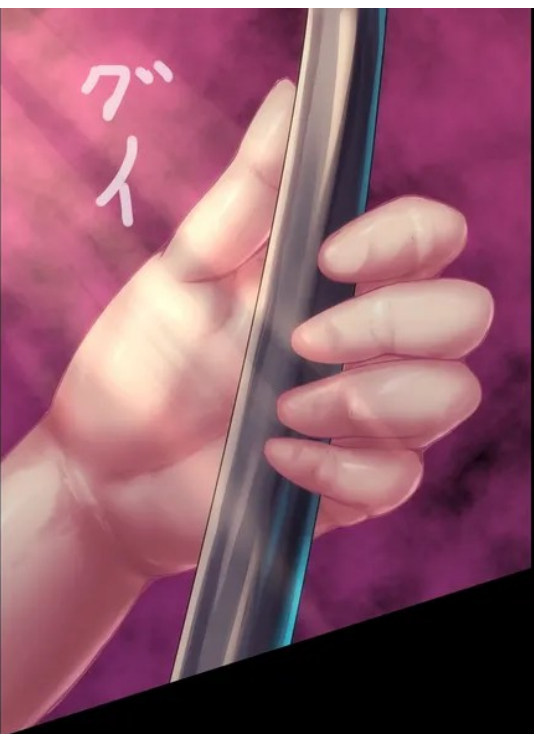


んはあ♡♡

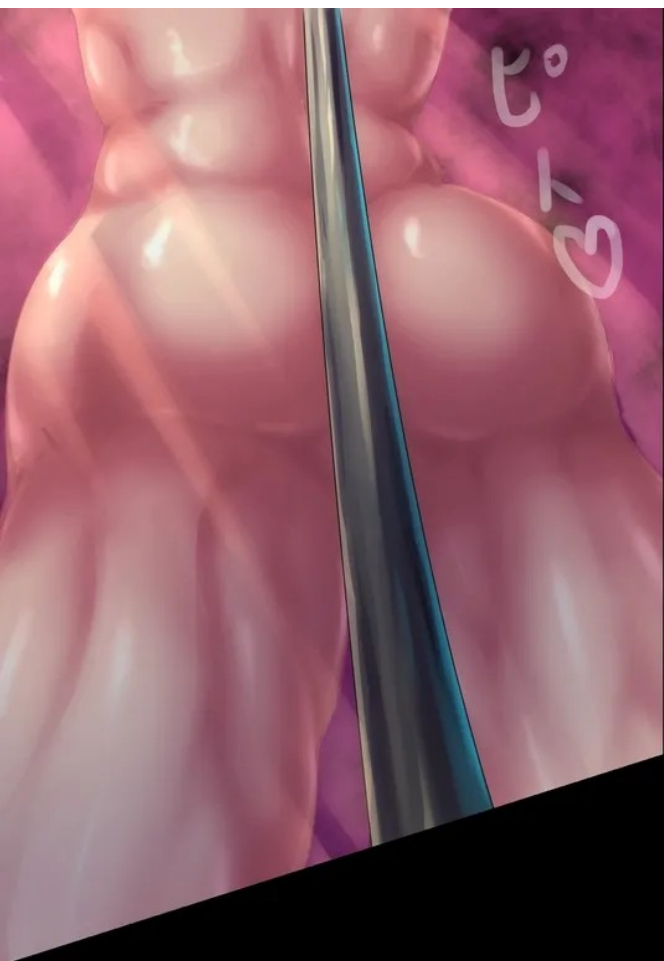




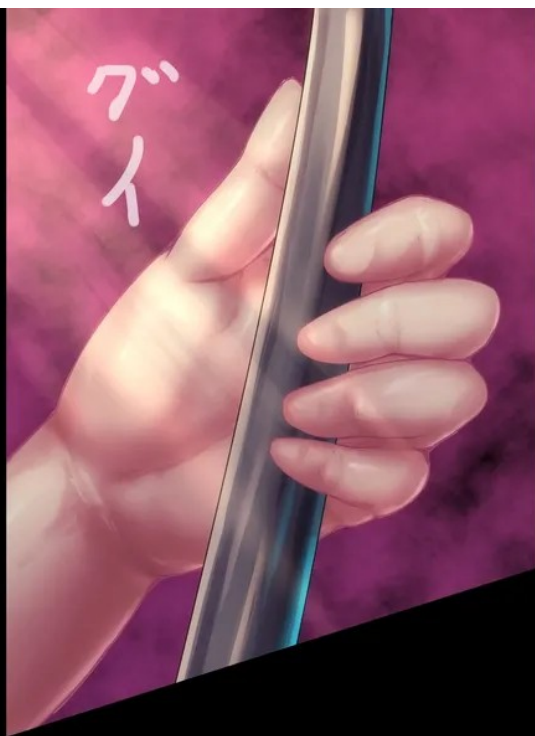
「ポール…」 「うふふ、痴女に変身したいカレ  
シちゃんなら…何をするか分かるよね♡」  
「ポールダンス…男なのにポールダンス♡」



「…ヤらかなきゃあ…」

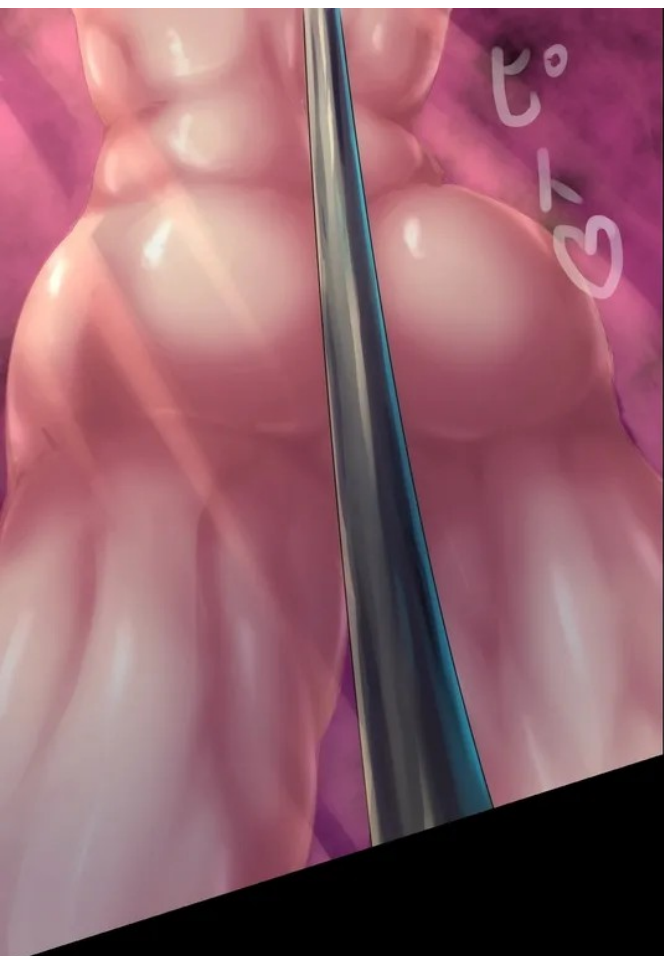


ピ  
スト  
リッ

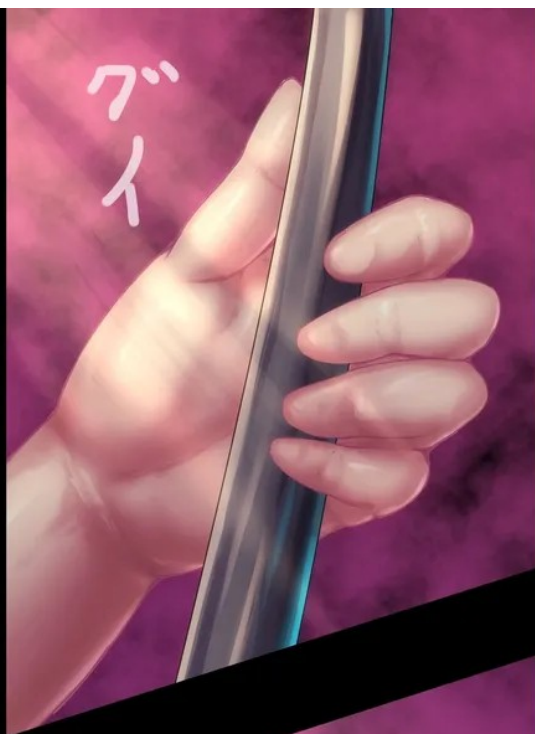


グ  
イ

「男を捨ててて…ストリップ変身するの♡」



ピ  
スト  
ン



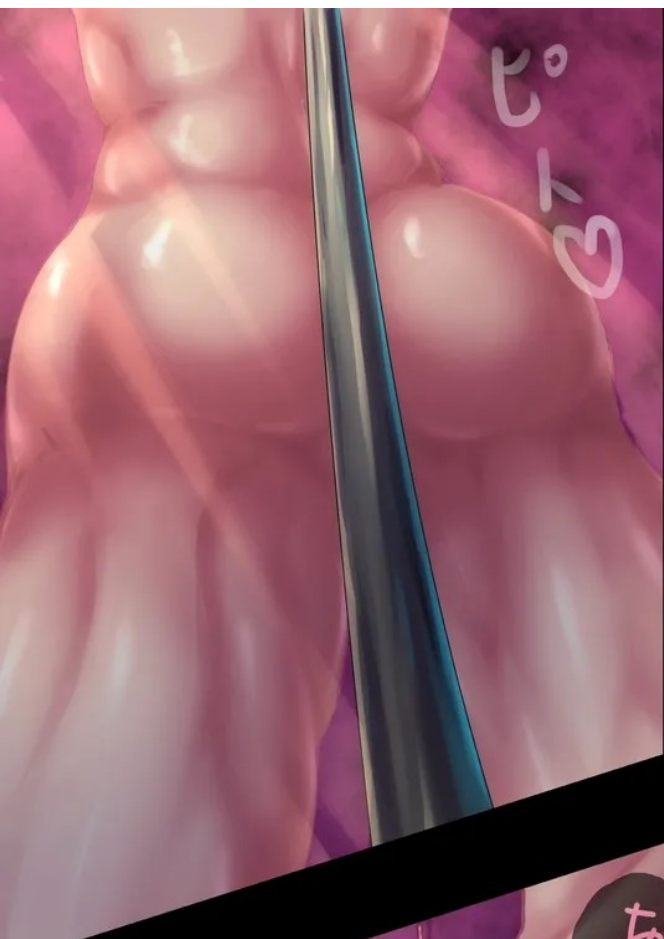
グ  
イ



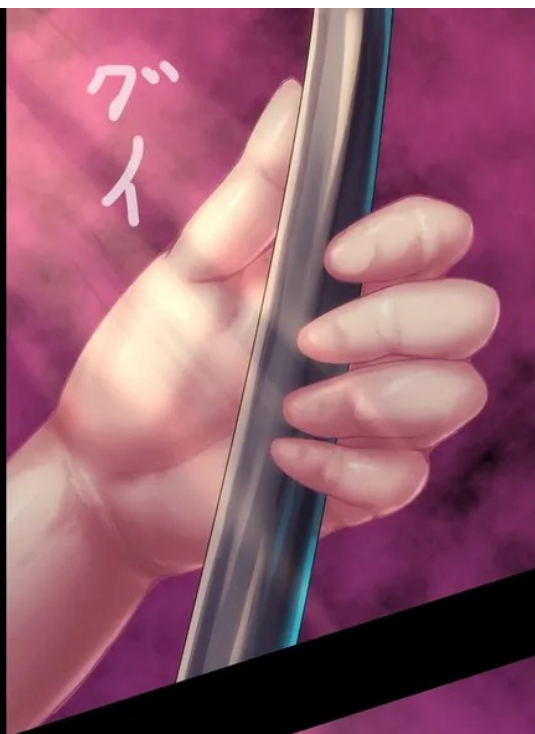
は  
あ

は  
あ

「この一線を越えたら……アタシは理性や  
良心を失ってしまう……イケないことなのに  
……どうでもイイ♡……」



ピ  
スト  
♡



グ  
イ



あ  
♡  
…

トロ  
ネ  
♡

ムク♡

ムク♡



は  
あ  
♡

は  
あ  
♡

「厭らしくストリップ変身して♡キモチよくなりたいたいのぉ♡…ああ、恥ずかしいイ♡……!! イ、イク…おっぱいでイク♡…」



んはあ♡♡



エビぞりアクメをきめると、アタシのオス  
おっぱいは、男を誘惑するフェロモン♡が  
たっぷり詰まったメスおっぱいに変身した。



「あはあ♡ストリップ変身キモチいい♡♡  
キモチよすぎて、アタシの中にある『男』が  
溶けちやうう♡♡」





「あはあ♡ストリップ変身キモチいい♡♡  
キモチよすぎて、アタシの中にある『男』が  
溶けちゃう♡♡♡♡♡」



「ああ♡悪意に満ちた粘液がアタシの脚を包み込んでえ♡…太ももからつま先まで犯されてるみたいでキモチいいのお♡」



「あはあ♡：負けちやつた：：アタシの脚い♡  
卑猥で邪悪なサイハイブーツに包まれてえ  
悪に屈しちやつた♡♡」



「あはあ♡…負けちゃった…アタシの脚い♡  
卑猥で邪悪なサイハイブーツに包まれてえ  
悪に屈しちゃった♡♡」



「あはあ♡：負けちやつた：：アタシの脚い♡  
卑猥で邪悪なサイハイブーツに包まれてえ  
悪に屈しちやつた♡♡」









アタシの本性…本当のアタシは…



「アタシは…暗黒大名を引き継ぐ者…  
アタシの使命は…世継ぎをつくること…」



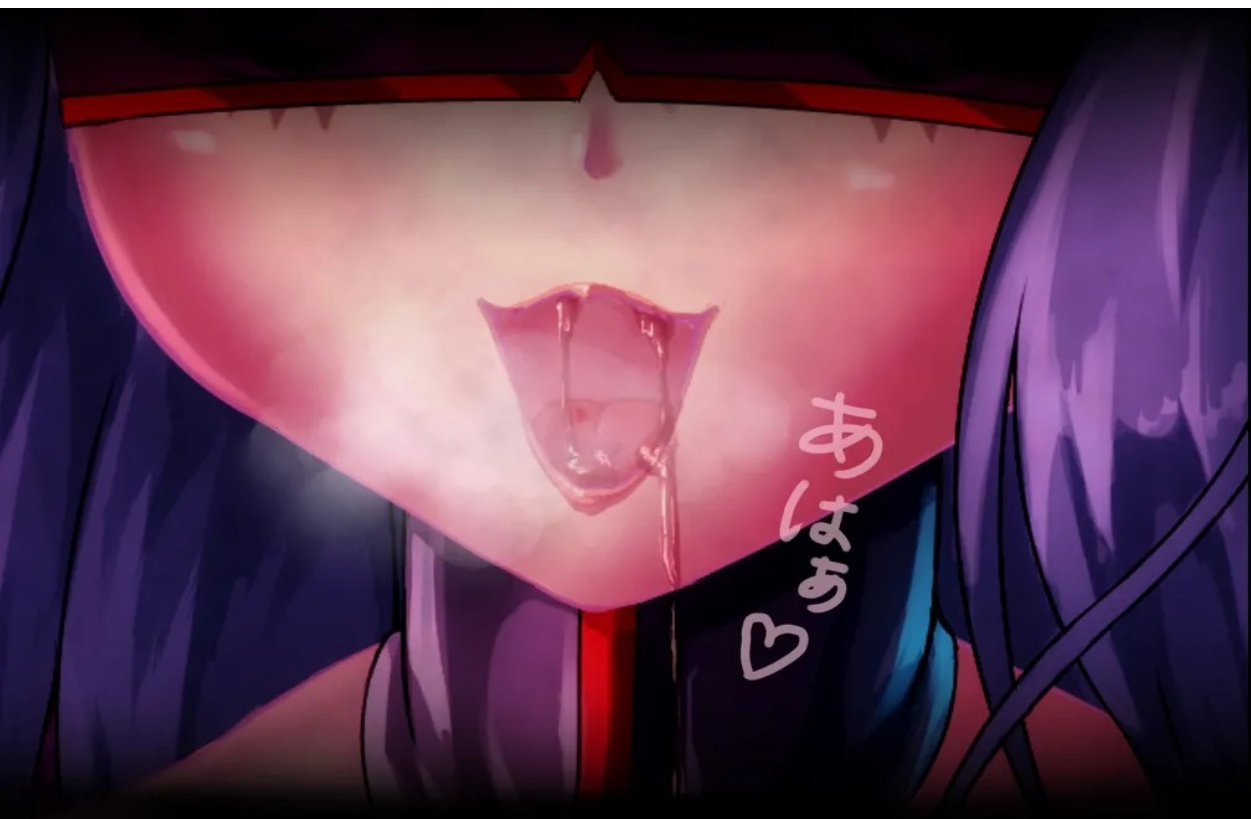
「キモチいい♡男を捨てて、暗黒大名に屈服  
しただけで盛大にイツちやつた♡アタシの  
イチモツも…勃起できなくなってる♡…」



「うふふ、カレシちゃんは私にバージンを捧げた時から、徐々に精子を産生できない体に変化していったの♡」



「でもね、暗黒大名の最大の使命は世継ぎをもうけること。カレシちゃん男として死んだイチモツも生まれ変わるの♡…」



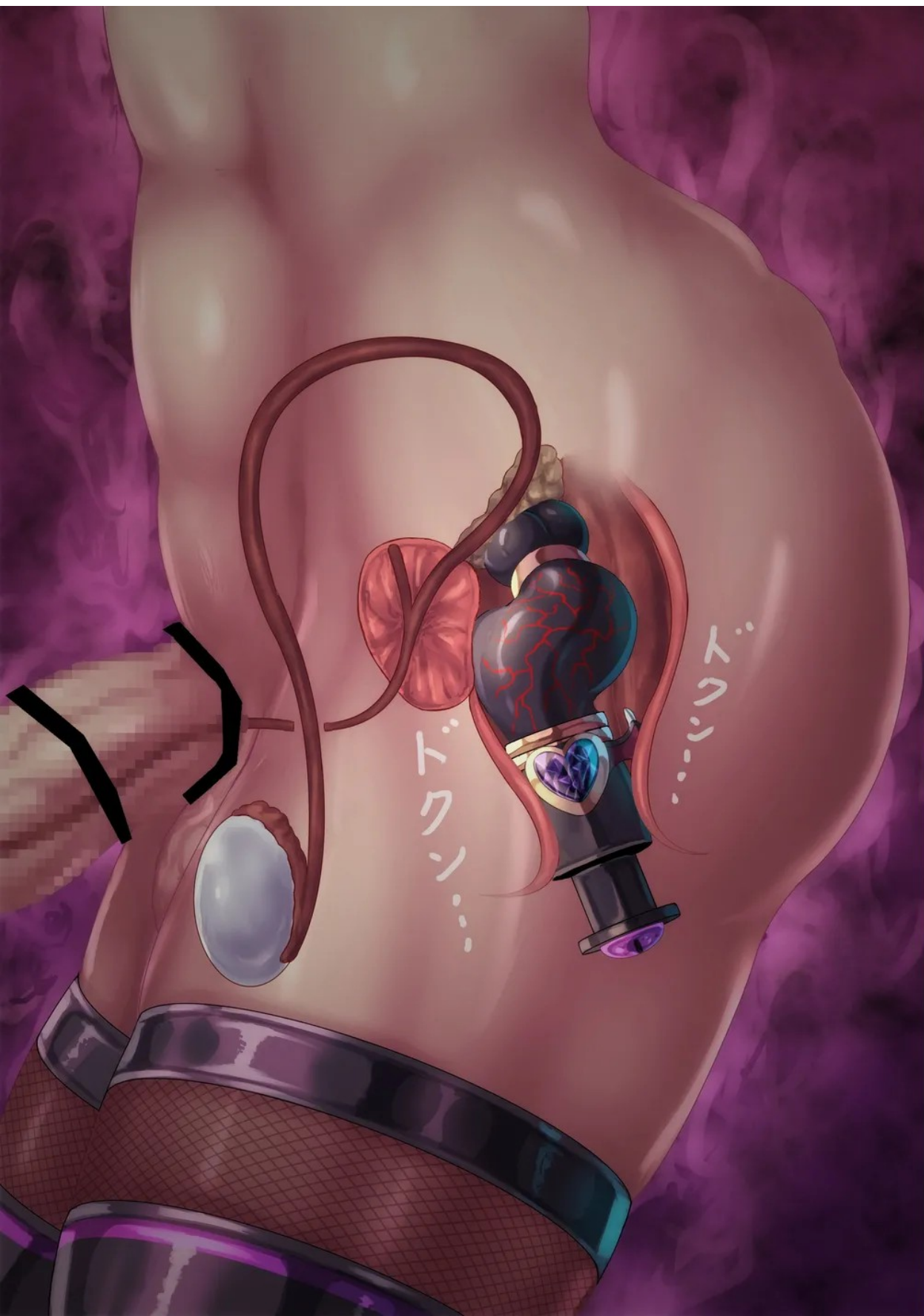
あはち♡



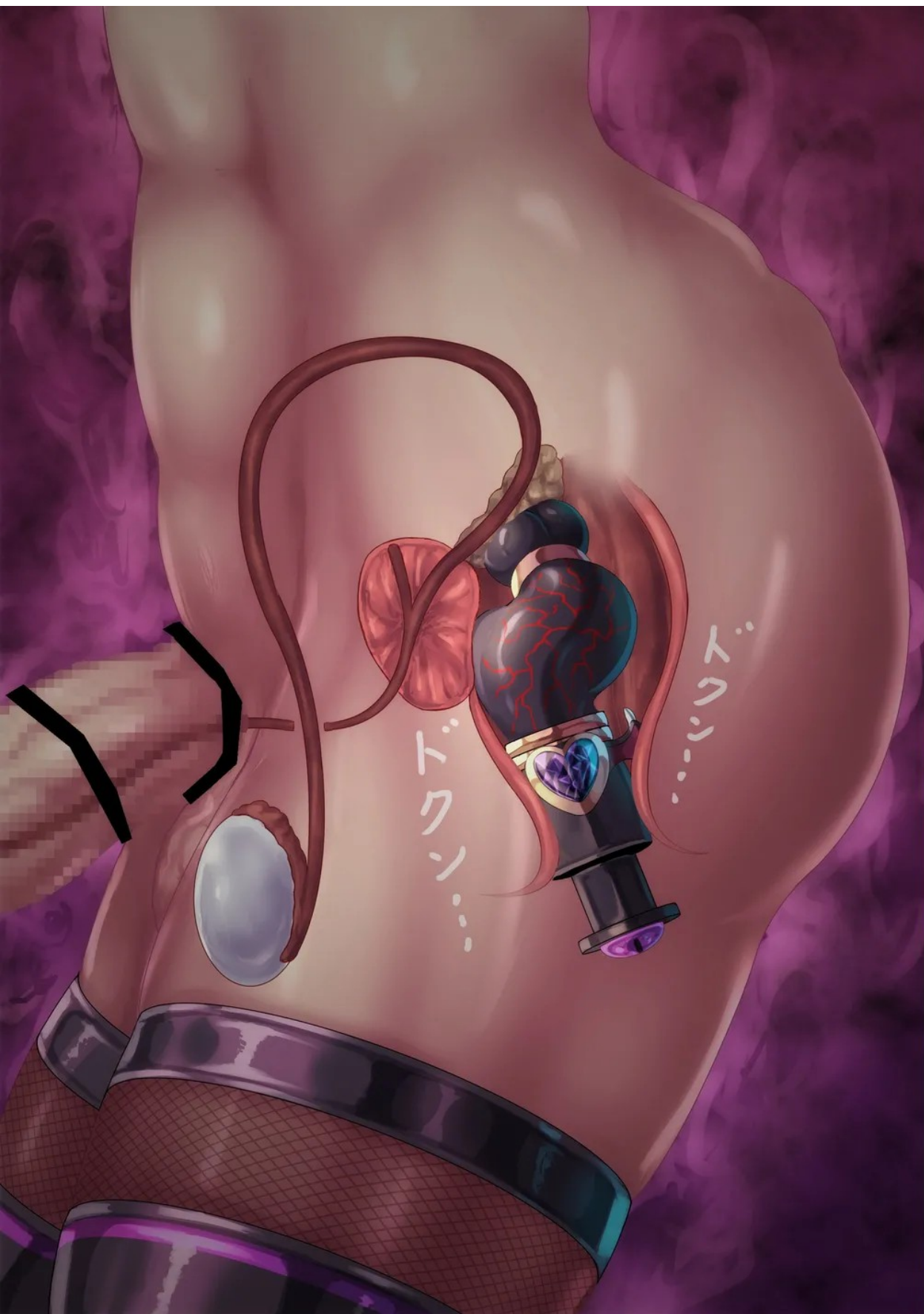
はち♡

はち♡

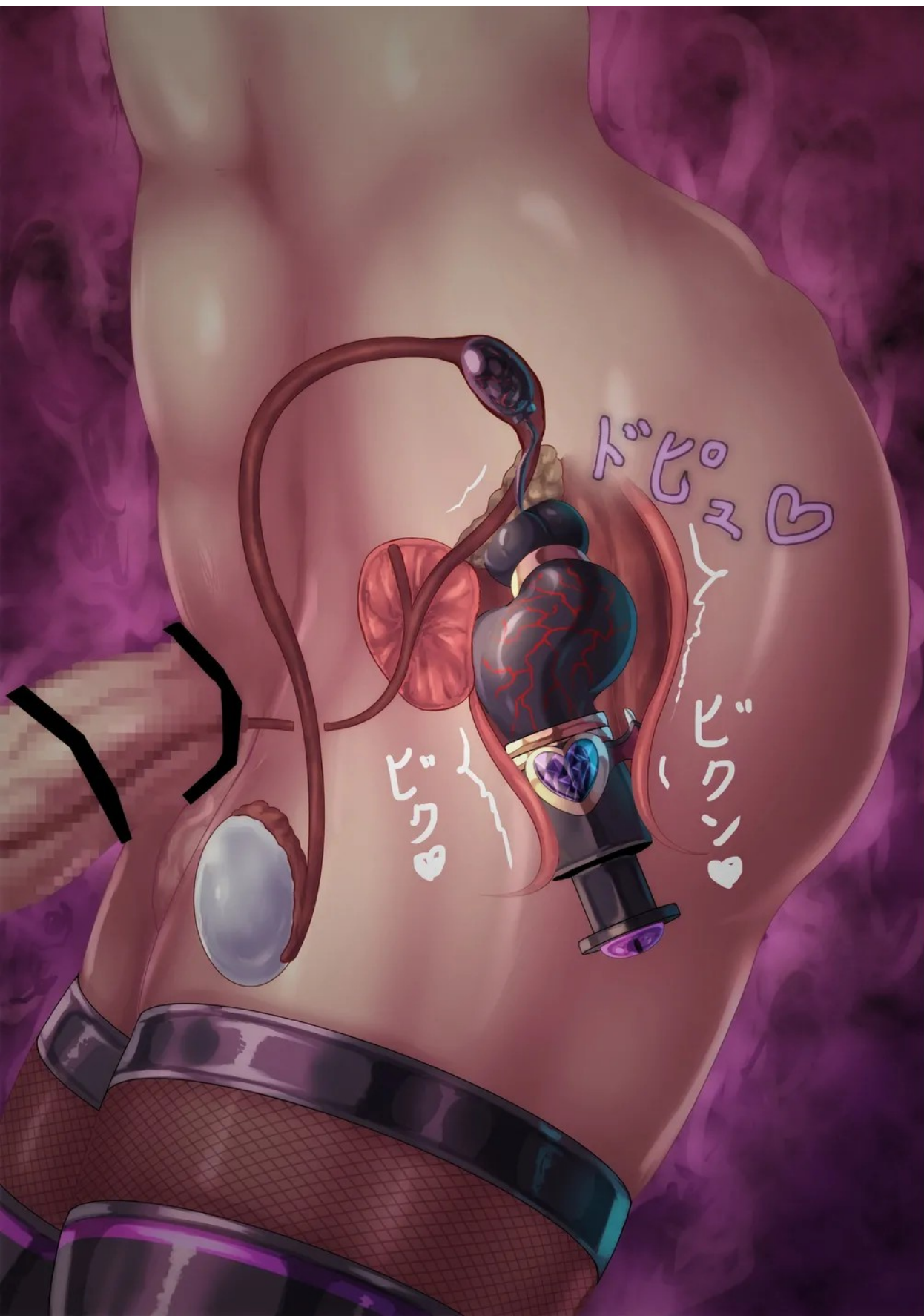
「暗黒大名の悪意が詰まった淫らな黒い精子をたっぷり出産でききるメスチンポに♡♡」  
「メスチンポ…生まれ変わる♡…」



「コラフマグラに仕込んである私の黒い精子が、カレシちゃんの死んだタマタマに受精♡することです、生まれ変わるのよ……」



「黒い精子による受精アクメはとつても  
キモチいいから期待してネ♡」  
「受精アクメ…」 「それじゃあ…いくよ♡」



「ん♡」コラフマグラから放たれた黒い精子が精嚢を厭らしく刺激する。そして、精管を拡張しながら奥へ進んでいく…

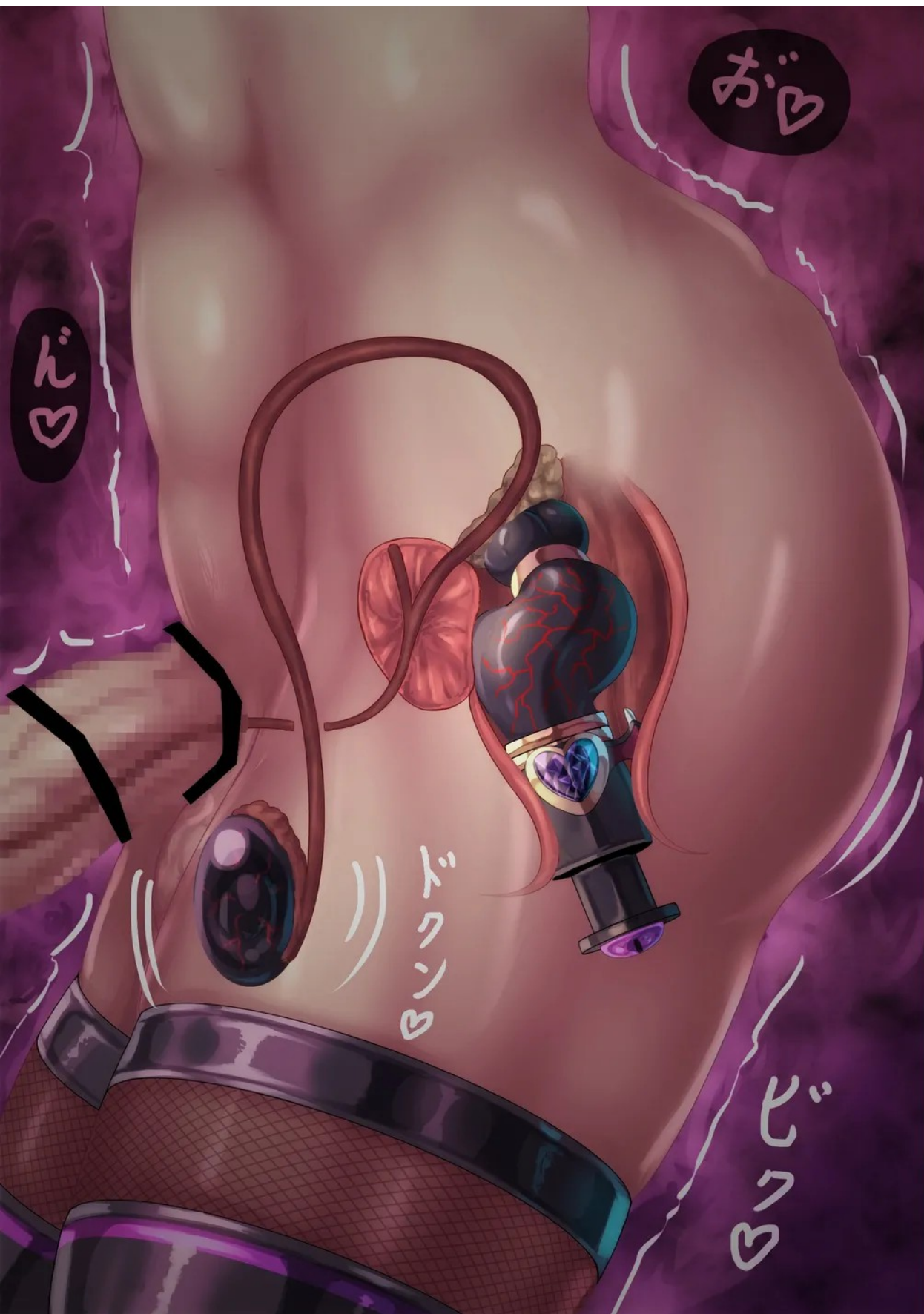


異物による精管拡張は体に未知の快楽をもたらし、アタシは軽くイってしまった...  
そして...



んほお♡♡





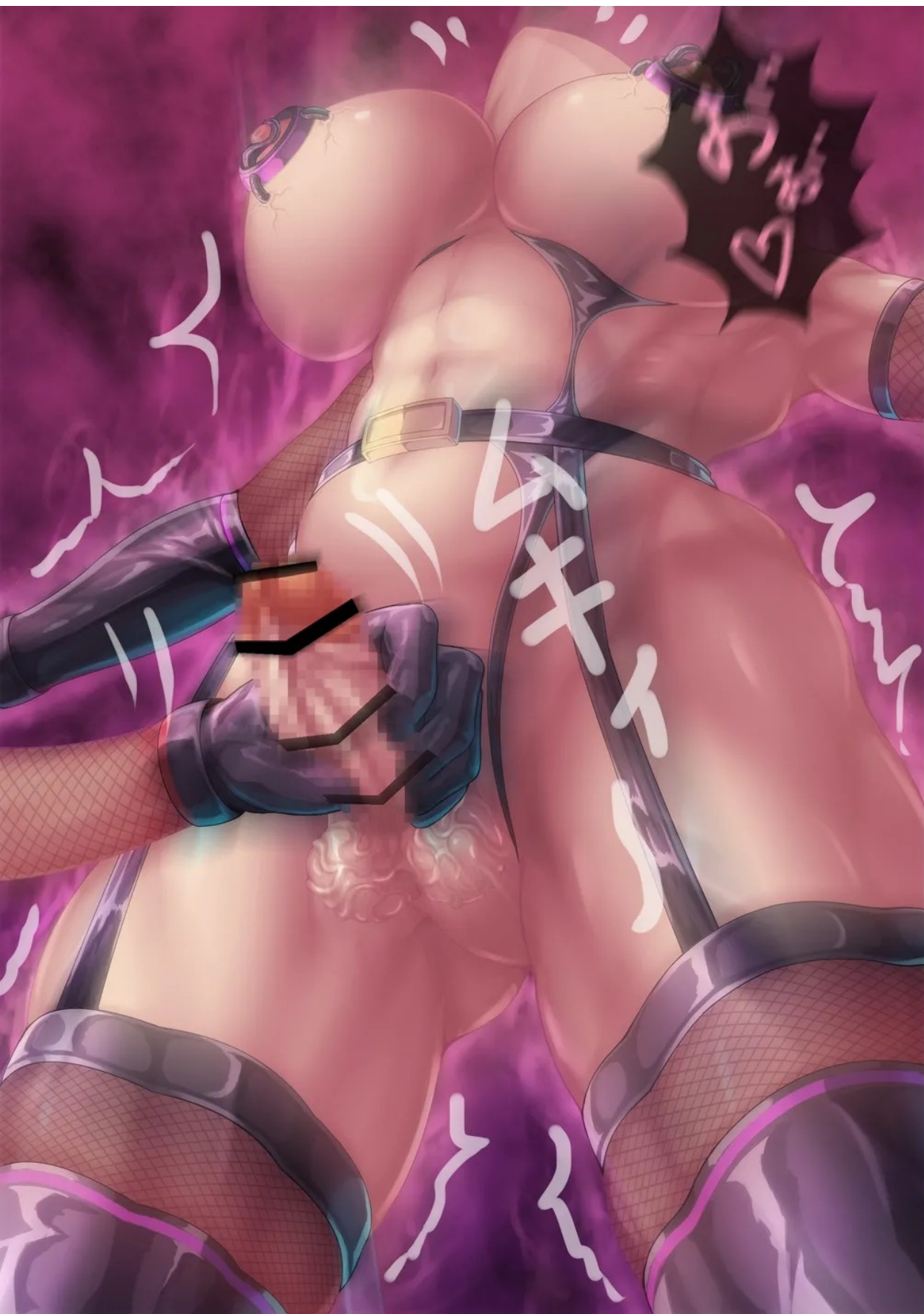
そして…アタシの男として死んだ精巣は  
ぷりっぷり♡の黒い精巣に生まれ変わった。  
「あはあ♡メスチンポの出来上がり♡」



アタシのメスチンポは男の頃とは比較にならないくらい猛々しく勃起していた。  
「さあ、元服の時間だよ♡」



「カレシちゃん  
の皮が被った  
コドモチンポ  
をオトナチン  
ポにしてあげ  
る♡」  
味方はアタシ  
のチンポを厭  
らしく握る…



んおっおっ♡♡



「おめでとう。これでカレシちゃんもオトナの仲間入りだね♡このまま、メスチンポキモチよくして精通させてアゲル♡」



「んほお♡」味方はオナホールのような卑猥な  
手つきで、辺りに厭らしい音を立てながら、  
アタシのメスチンポをやさしく扱く。



メスチンポから与えられる快樂は、男の頃とは異なり、「じわあ〜とした女性的なもので、何だか愛おしい気持ちになった。」

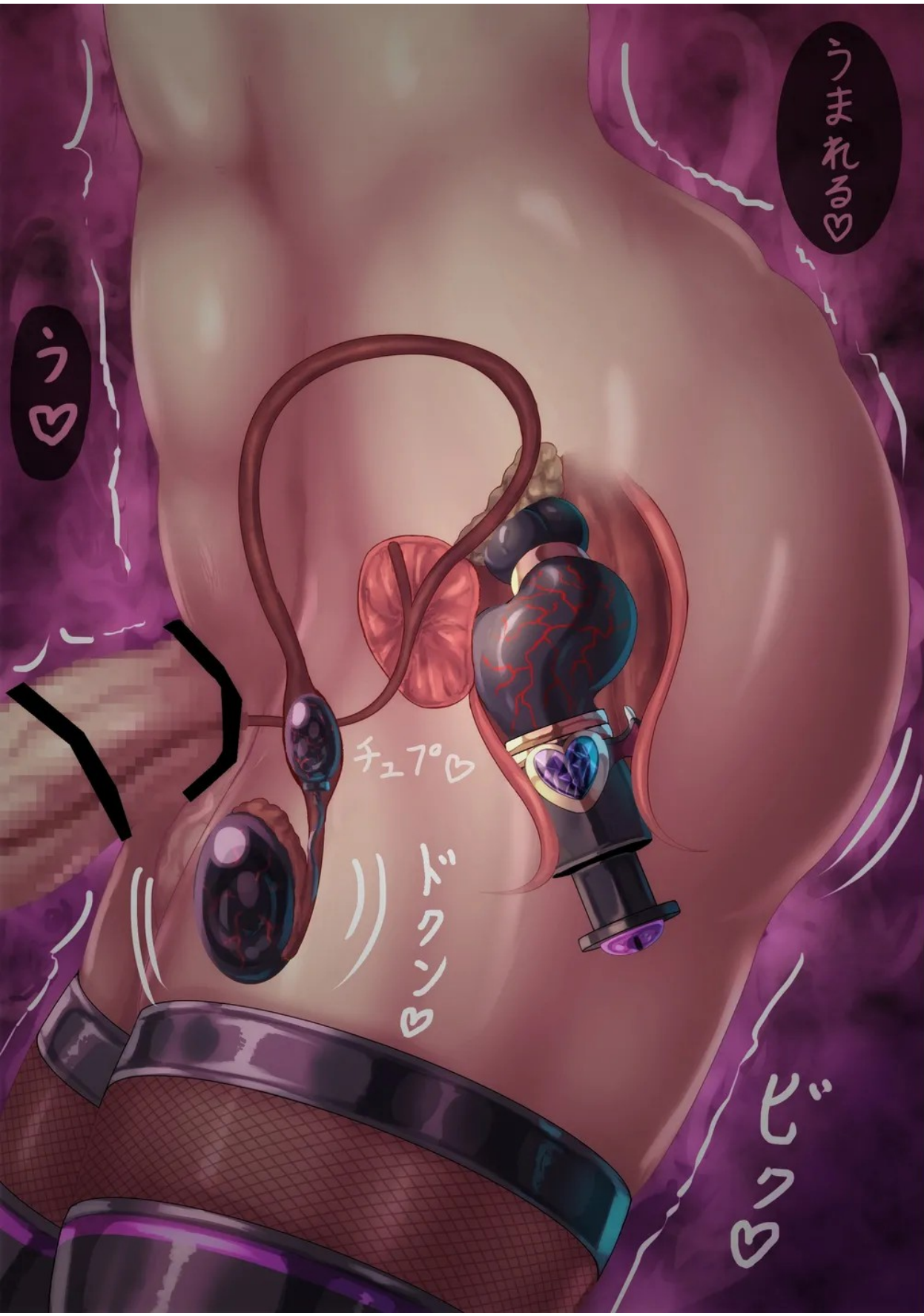


「ブシヤ〜♡」まるで破水した様に、厭らしい音を立てて、メスチンポからガマン汁♡が漏れる。…何だかタマタマが妙に疼く…



「臨月が近いのね。カレシちゃんは今から黒い精子を出産するの♡初めての出産はとつてもキモチいいのよ♡」

アタシのタマタマからぷりぷりの黒い精子が放たれる。黒い精子は産道を通る様に精管内を進んでいく。



うまれる♡

う♡

♡7°♡

ドクン♡

♡クビ



黒い精子に前立腺を犯されて♡心地よい  
メスの快樂が全体に広がっていく…メス  
チンポの鈴口がパクパク開く。そして…



イググシ♡♡





「精通出産おめでとう♡メスの余韻に浸って  
いるところ悪いけど、変身の最終工程を  
始めるよ♡」



アタシが産んだ子供たち(黒い精子)が  
股間やお尻を覆う様に集まり、  
厭らしい衣装♡を形成していく...



「変身完了♡さあ、あなたは何者か答えて。」  
「アタシ…アタシは…」

「アタシは暗黒大名コラフ一族次期当主  
コラフカレシ養子になるために、男を  
捨てて痴女に生まれ変わりましたあ♡」





コラフ一族存続のため、アタシは高校の  
同級生を物色し、世継ぎの資質がある者を  
ひたすら犯し続けた…

「終」





































